

『新天理図書館善本叢書』 完結にあたって

岡 寛 偉 久 子

はじめに

天理図書館では、二〇一五年四月、影印複製叢書『新天理図書館善本叢書』全5期36巻刊行の事業を開始、本年（二〇二二年）二月にその最終配本を終え、当事業を完結いたしました。

六年の間には、当初予定の書目編成にも変更があり、また編集の上からも様々な問題が生じましたが、二ヶ月毎の配本はなんとか予定通りに遅滞なく進めることができ、完結の日を迎えるに至りました。

これはひとえに、制作出版担当の八木書店、製版印刷担当の天理時報社の熱意と共に、書目選定・解題にあたってご尽力を賜ったご専門の方々の好意に満ちたご支援によるもので、深甚の謝意を申し上げる次第です。

高精細カラー版
『新天理図書館善本叢書』について

本館はこれまで、貴重な典籍の更なる利用・活用を願って、同時に、後世に原本を永く伝えるための「保存」という理念に資するために、利用と保存との両立を意図して『天理図書館善本叢書』（一九七一一一九八六年）以来、種々の影印複製事業を進めてまいりました。この度の『新善本叢書』もこうした影印複製事業に続くものです。

そうした中で、この度の影印事業の特色は、なんといつでも高精細画像によるオールカラー版という点です。従いまして、書目選定の基準は、各分野における最も重要な伝本の一つであると共に、高精細フルカラー印刷ということが極めて重要な意味を持つ資料であること。すなわち、朱と墨とを使い分けての訓点・句読点・声点等がある、彩色があつてそれが原本情報として不可欠であるもの、また摺

り消し・重ね書き・墨色の差違までが問題となるもの、名家の自筆、といった類いのものです。

ただし、原本の様々な色調を紙面に正確に再現するといふことは、最新の機器・精密な技術と共に、携わる人々の力量、また労力も要求されるものでした。各書目のカラー刷りの見本を作成しては、原本照合をおこない、訂正すべき箇所の色を話し合う。特に奈良絵本などは、天理時報社製版担当の方々の並々ならぬ熱意によって、館員の立ち会いの下、全ての書目について、繰り返ししての原本照合・色調の訂正が行われました。最終の天理時報社における印刷には、毎回、八木書店編集部担当者も終日立ち会い、本館、八木書店、天理時報社の三者で色調を決定しました。

この度の影印複製は、今の時代に、デジタル画像ではなく、紙面に原本の色調を確定していく方法を選択したわけですが、三者共に納得のできる仕事となりましたことを喜びとさせていただきます。

事業の経緯とその概略

△二〇一四年▽

三月○天理図書館前館長諸井慶一郎、八木書店会長八木壮一の両氏によって『新善本叢書』出版事業

についての話し合いを持つ

四月○上記話し合いを受けて、館長及び、主として貴重書担当者を中心にオールカラー版影印叢書の企画を検討

六月○『新善本叢書』書目選定に入る。分野によって期を分け全5期とすること、及び、各期の編集業務の主・副担当者（館員）を決定

○天理時報社にて、製版印刷の仕様についてのテストを開始（画像データについて、製版、画像接合、用紙比較等）

七～九月○担当者を中心に各期の所収書目をほぼ確定、解題者の選定・依頼に入る

○画像データのない書目について本館での撮影を開始

十月○内容見本等の編集

○第1期「国史古記録」第一・二回配本『日本書紀 乾元本』の編集実務作業の開始

十一月○内容見本の発行

○天理時報社での種々のテスト結果により、既撮影分中の再撮影書目を決定、順次撮影開始

一月 第一回編集会議（出席：天理図書館・八木書店・

天理時報社）

○制作・進行、装訂・本文用紙等についての最終確認

○刊行を記念しての「展覧会・見学会」について
○学会出展・メール・ツイッター等の反応について、受注状況について

四月 第二回編集会議（出席：天理図書館・八木書店・

天理時報社）

○第一回配本『日本書紀 乾元本一』仕上がりの確認と刊行の承認

○第二回配本の解題について

○以降の各書目における所収上の問題点等について

四月二十三日
○刊行を記念しての「展覧会・見学会」について

○刊行記念展「古典籍の至宝」展、及び「天理図書館・天理参考館見学会」を開催

○第1期「国史古記録」第一回配本『日本書紀 乾元本一』の刊行

以上が、本事業の発足から第1巻の刊行に至るまでの経緯概略です。

検討開始から刊行までが一年足らずのため、未だ細部の詰めが終わらないままに所収確定の書目から撮影を開始。各書目の調査が進んでいく中で、新たに錯簡・脱落等が判明することもあり、また、貼付紙・裏書・紙背文書等の収録方法変更もあり、その度に、本館での再撮影も行いました。十月あたりからは、配本順に従っての、紙焼と原本との照合・点検、目次・柱ネーム等の確定、解題編集等々、巻毎の編集作業も加わり、更に、二ヶ月毎の配本としたために、ほぼ三分の配本書目の作業を常に並行して行うこととなりました。

配本前には必ず、三者（天理図書館・八木書店・天理時報社）揃っての会議を行い、仕上がりを確認、しかる後に配本を行いました。六年間において、配本予定冊の回覧と書面のみ会議としたのは、コロナ禍における二〇二〇年の三回、二〇二一年の一回、計四回でした。

以下、

二〇一六年二月 第1期「国史古記録」全6巻の配本終了
二〇一八年十月 第2期「古辞書」全6巻・第3期「源氏

物語」全10巻の配本終了

二〇二〇年二月 第4期「奈良絵本」全8巻の配本終了

二〇二一年二月 第5期「連歌俳諧」全6巻の配本終了

所収書目の変更・増補等について

全5期の所収書目を定めて刊行を開始したわけですが、その後、各書目についての調査が進んでいく中で、所収書目にくらかの変更・増補等が生じました。その概ねは以下の通りです。

第1期第6巻『定家筆古記録』に収録予定であった「天文密奏」「藤原定家消息」の二点については、定家真筆であることに疑義が生じ収録を取り止めました（『ピブリア』第一四四号参照）。また、第5期第31巻『連歌卷子本集一』・第32巻『連歌卷子本集二』は、当初、各八点の収録予定でしたが、それぞれに四点ずつを増加、各十二点の収録となりました。また、同第35巻『蕪村集一』には二点を加え、計五点の収録となりました。書目の詳細については、付載の「収録書目一覧」を御参照ください。

尚、二〇一八年三月、『源氏物語 池田本』の刊行中、該本が新たに重要文化財の指定を受けたのは喜ばしい出来事でした。

おわりに

現代は、デジタルアーカイブが急速に進展・普及している時代でもあります。この度の影印複製叢書は、画像の色調の固定・確定を求めて、同時に、原本代替資料としての長期にわたる保存ということを勘案して、あえて、紙媒体のフルカラー影印複製叢書といたしました。しかし、今後このような事業がどのような形で継続されていくのか、進展していくのか、その推移の中で、天理図書館としての事業をどのように進めていくのか、大方のご指導・お力添えをお願い申し上げます。

★おかじまいくこ 本館嘱託

収録書目一覽

○ 国宝 ● 重要文化財 ★ 新収書目〔善本叢書〕未収

【第1期】国史古記録 全6巻

第1巻 古事記 道果本 播磨国風土記

第2～3巻 日本書紀 乾元本 一・二 神代上・神代下

第4巻 古語拾遺 嘉禄本・暦仁本

第5巻 明月記

● 治承四・五年記／正治元年八月他記／正治元年九月他記／

建仁二年正月他記／嘉禄三年七月他記／嘉禄三年八・九月

他記

第6巻 定家筆古記録

兵範記／射遺事／外記政／釈奠次第／御産七夜次第／定家

小本／古今名所／石清水八幡宮権別当田中宗清願文案

〔善本叢書〕既収

【第2期】古辞書 全6巻

第7巻 和名類聚抄 高山寺本

第8巻 三宝類字集 高山寺本

第9～11巻 類聚名義抄 観智院本 一～三 仏・法・僧

第12巻 世俗諺文 作文大牀

【第3期】源氏物語 全10巻

第13～22巻 源氏物語 池田本 一～十

【第4期】奈良絵本 全8巻

第23巻 奈良絵本集 一

天神縁起絵巻（室町末期写）／八幡大菩薩御縁起（江戸中

期写）／鼠の草子絵巻（室町後期写）／鼠の草子絵巻別本

（江戸初期写）／やひやうゑねずみ（江戸初期写）

第24巻 奈良絵本集 二

舟のゐとく（江戸前期写）／常盤の姫（江戸前期写）／小男

の草子絵巻（室町末期写）／小男の草子絵巻別本（慶長12

年写）／小おとこ（江戸初期写）

第25巻 奈良絵本集 三

小伏見物語（江戸初期写）／ひだか川（江戸初期写）

第26巻 奈良絵本集 四

あま物語（江戸初期写）／大古久まい（江戸前期写）／磯崎

物語（江戸前期写）

第27巻 奈良絵本集 五

いはやものがたり(室町末期写)／じやうり(室町末期写)

第28卷 奈良絵本集 六

しづか(室町末期写)／まんぢうのさうし(江戸初期写)／

花鳥風月物語(室町末期写)

第29卷 奈良絵本集 七

熊野の本地(室町末期写)／宝月童子(江戸前期写)

第30卷 奈良絵本集 八

虫妹背物語(享保2年写)／山海異形(江戸前期写)

【第5期】連歌俳諧 全6巻

第31巻 ★連歌卷子本集 一

集百句之連歌(文明元年8月15日 能阿自筆)／賦唐何連

歌百韻(文明19年6月25日 実隆自筆)／賦何人連歌百韻

(長享2年正月22日 伝宗長筆)／賦山何連歌百韻(天文3

年2月27日 伝真牧筆)／賦浄土要文連歌百韻(天文17年

6月9日)／賦何人連歌百韻(天文20年9月12日 紹巴筆)

／近衛植家恵雲院追善連歌百韻(永禄9年 紹巴自筆)／

賦何路連歌百韻(永禄10年7月9日 紹巴自筆)／賦何船

連歌百韻(永禄12年閏5月28日 紹巴自筆)／賦何船連歌

百韻(永禄13年3月21日 昌叱自筆)／賦山何連歌百韻

(元龜2年2月23日 紹巴自筆)／賦何船連歌百韻(天正3年9月15日 紹巴自筆)

第32巻 ★連歌卷子本集 二

經文之連歌百韻(天正7年4月13日 昌叱自筆)／賦何人

連歌百韻(天正9年3月16日 藤孝自筆)／賦何垣連歌百

韻(天正10年6月26日 紹巴自筆)／夢想之連歌百韻(天

正10年8月18日 紹巴自筆)／賦何人連歌百韻(天正15年

3月7日 紹巴自筆)／賦何木連歌百韻(天正15年6月24

日 紹巴自筆)／賦初何連歌百韻(天正16年11月13日 紹

巴自筆)／賦初何連歌百韻(天正19年11月24日 紹巴自筆)

／賦何船連歌百韻(天正20年11月24日 紹巴自筆)／初学

用捨抄(紹巴筆)／賦山何連歌百韻(慶長20年3月吉日

玄仲自筆)／賦何牆連歌百韻(明暦2年2月28日 宗因自

筆)

第33巻 ★西鶴自筆本集

俳諧之口伝／胴骨三百韻／西鶴評点政昌等三吟百韻卷／夢

想之俳諧／西鶴独吟百韻自註絵巻／世継翁画賛／「神の梅」

発句画賛／「大ふりや」発句画賛／「塩浜や」発句画賛／

「梅に鶯」画賛／磯崎松画賛／西鶴・才磨画賛／「父ハ花」

発句短冊／「穴師吹」発句短冊／「餅花や」発句短冊／「夜

のにしき」発句短冊／「御詠歌や」発句短冊／「軒下の」発

第35卷 蕪村集 一

一 輪牡丹図・(参考) 鯉屋伝来預り品書

稿・四山瓢銘・富嶽遠望図・葡萄栗鼠図・稻穂図草枕句文・
息図・「はつ雪や」発句色紙・枯木鹿自画賛・蓑虫説跋草

芭蕉画竹図・述懐の句文・松飾自画賛・支考書簡・芭蕉脇
隣書簡・萩鹿図・「観音の」発句懷紙・芭蕉翁馬上吟図・

弔ふ句文・「月雪と」発句短冊・素堂寿母七十七賀句・桃
山「はま弓や」発句詠草・夏三句詠草・初秋七日の雨星を

冊集・「鉢た、き」発句画賛・「愚に闇ク」発句短冊・祝商
「みのむしの」発句画賛・蓑虫説・蓑虫説跋・歳旦発句短

句画賛・「朝顔に」発句画賛・「あかあかと」発句画賛・
きて」発句短冊・「ほろほると」発句画賛・「葛の葉の」発

句画賛・「朝顔に」発句画賛・「あかあかと」発句画賛・
「みのむしの」発句画賛・蓑虫説・蓑虫説跋・歳旦発句短

冊集・「鉢た、き」発句画賛・「愚に闇ク」発句短冊・祝商
山「はま弓や」発句詠草・夏三句詠草・初秋七日の雨星を

第34卷 芭蕉集 自筆本・鯉屋物

奥の細道行脚之図(既収)／野ざらし紀行(鯉屋物・既収)
／鹿島紀行(鯉屋物・既収)／あつめ句(鯉屋物)／梅雀桐

蹊両吟歌僊俳諧／能家や」詠草稿／幻住庵記／癸酉記行
(鯉屋物・既収)／芭蕉書簡(3点)／鯉屋物集(ひとつめ

第36卷 蕪村集 二

夏より 三葉社中句集／高徳院発句会／月並発句帖／取句
法／花頂山中高徳院発句会「時雨」句

夜半亭蕪村句集

令和3年5月25日印刷
令和3年5月26日発行

ビブリア 令和3年5月 第155号

天理市柚之内町1050 (☎ 632-8577)

編集	天理図書館	代表者	東井光則
発行	天理大学出版部	代表者	永尾比奈夫
印刷	天理時報社	代表者	前川誠司
編集委員	澤井廣次	池谷 礼	宮川真弥
	高橋 諒	竹内ルーク	成仁